

令和8年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時：令和8年9月1日(火) 14時30分～15時30分

場 所：羽曳野市役所 4階会議室

出席者：（委員）木下会長、佐原委員、高岸委員、高崎委員、竹中委員、永尾委員、
鳴橋委員、濃野委員（五十音順）
（教育委員会）村田教育長、藤田生涯学習部長、薮中生涯学習スポーツ課長
（事務局）藤本館長、花川主査、岩佐行政職専門員

欠席者：江川委員、前田副会長

傍聴者：1名

【次 第】

1. 委嘱状交付式

2. 開会

- ・教育長挨拶
- ・事務局より、会議録の要録をWEB及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、記録のために会議の録音及び写真撮影を行うことの報告
- ・委員の紹介、出席者8名で委員会成立の報告、事務局職員の紹介

3. 議事

- (1)会長あいさつ
- (2)第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
- (3)その他

4. 閉会

生涯学習部長あいさつ

【報 告】

- ・「第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について
配布資料「羽曳野市子ども読書活動推進計画」に基づいて説明。

【意見等】

会 長：2027年度すべて継続ということだが、今年度から新しく実施するものは？

事務局：陵南の森図書館では今年度の新しい取り組みとして、アイマスクや白杖体験等のイベントをする予定。また「ビブリオバトル」は少し敷居が高いかなということで、「バトらないビブリオバトル」を実施し、好評であれば次年度以降も行う予定。今後も様々な企画を考えていきたい。

会 長：「ゆず本・エコぽん（本）」について。

いいなと感じたのは、中央図書館で3点借りるごとに交換券1枚ということ。
これは他の図書館が実施しているリサイクル本のフェアだと、当日に整理券を並んで配る形式が多い。貸出促進、読書につなげるという、このやり方は非常に良い方法、有効な方法だと拝見した。

委 員：保育園には、たくさんの絵本があり、お昼寝前、活動の合間、クールダウン時等、様々な場面で絵本に触れる機会はあるが、先ほど教育長もおっしゃっていたように、低年齢のうちからスマホや動画に慣れてしまい、保護者は子供たちを静かにさせないといけない場面で、携帯を握らせておく、タブレットを持たせておくという場面をよく見かける。「家庭の中で絵本等は読んでいますか」と聞くと、家庭に絵本がない家庭が昔に比べてすごく多くなっている。そのことは寂しく感じるけれども、保育園では、そのような電子機器はないので、絵本とか素話などに触れながら、初めの第一歩として0歳から5歳の子供たちまで絵本の時間を大切に取り組んでいる。
家庭から図書館へとか、保育園からも散歩を兼ねて図書館に出かけたりするが、家庭で絵本を推進していく大切さをすごく感じている。

会 長：羽曳野市では近年、ブックスタートを再開していただいた。それが今、委員が課題と思っておられるところにも繋がればということ。

委 員：幼稚園でも、図書館から学期ごとに「たけのこくん BOX」で150冊借りており、毎週子供たちが1人2冊ずつ持って帰り、感想文を親子で一緒に書くということをやっている。
今年度は、埴生南小学校、丹比小学校、それから河原城中学校の図書館にも出向き、そちらの児童・生徒の方々と一緒に学校司書の方のお話を聞かせてもらおうというのを企画して、子供たちが絵本に触れる機会を、できる限り大切にしていきたいと思っている。

委 員：ブックスタートは保護者の方が先に絵本をご覧になられて「これ、私が小さいとき読んでいた」と、懐かしんでくれている。健診後にそのまま帰られる方、絵本の読み聞かせのため来てくれる方がいるが、絵本の読み聞かせに来てくれる方は、保護者が絵本に興味をお持ちの方が多く、4か月の赤ちゃんでも、はっきりした色とか片言とか、リズムのある言葉とかには反応してくれている。赤ちゃんが絵本を見てくれないということはなく、じっと見てくれたり、笑ってくれたりするときもあり、「いいな」と感じている。

会 長：大学の司書課程の授業で、NPO ブックスタートがブックスタートの様子を動画にまとめてくれていて、その動画を授業で学生たちに見せると、本当に今、委員が話されていた、文字が読めないはずの赤ちゃんの表情とかを見せて、「私たちのブックスタートにはこんなことがある」と学生に伝えている。また、自分自身がどうだったか、ブックスタートは 2001 年から日本で始まっているので、一応家に帰ったら保護者の方に自分が体験したかどうか聞いてみたらどうかということ、よく授業で伝えている。

本当に、羽曳野市でブックスタートが復活してよかったなと思っている。

委 員：ブックスタートには、私も参加させていただいているが、本当に赤ちゃんに反応してもらえるのはすごくうれしく思っている。

ただ、赤ちゃんが実際におはなし会を体験しているのはいつも半数ぐらい。皆さんお忙しく、そのまま本を受け取って帰ってしまう方も半分ぐらい。図書館ではそういう方の数を掴んでいると思うが、入ってこられた方に「羽曳野市には、こんな図書館がありますし、おはなし会もしている」と声掛けをしていたら、後日に図書館のおはなし会に来てくれた方もいた。小さい子の登録も増えてきているという声もあったので、そこが繋がっているならいいかなと思う。それと、図書館でも小さい子向けのおはなし会をしていただきたいと思う。

今、おはなし会に来る小学生は少ない。赤ちゃんや小さいお子さんが増えてきた。図書館なので、当日どんな年齢の子が来るかわからない。いろいろ絵本を持って行き、準備はしているが、当日に赤ちゃんだったらどうしようかと思うこともある。ボランティアのために童歌とか、図書館で講習会など少しでも勉強できる機会を作ってほしい。図書館でも小さい子のためのおはなし会を、別に開催している市もあるので、そういう機会があれば、おはなし会もしているから、赤ちゃん連れでも図書館に行ってもいいと考えてくれれば、図書館へ来る機会も増えるのではと思う。

会 長：おはなし会は蓋を開けてみないと、どれくらいの年齢の方が参加されるのかわからないということですが、「赤ちゃんのための」と銘打って、対象を赤ちゃんとその保護者に限定しておはなし会を開催しているところもある。そうすると、関わる側としては最初から対象がはっきりしているので、準備もスムーズで、「やっぱり図書館のおはなし会って大きい子が多いんと違うかなあ。」「やっぱり行ったらあかんかな。」と思っている方が「赤ちゃんのためのおはなし会があります」となれば、「おはなし会に行ってもいい」と、ちょっと敷居が低くなるのではという気がして。学校でおはなし会とか、小さい子向けのおはなし会っていうのを開催されている市も多いので、考えていただけたらなと。そうすればこの読

書活動にも繋がることかなと思う。

例えば、赤ちゃんのためのおはなし会。明石市は、保健師もそこへ出向いておられて、子育て相談みたいなことをされているという実例も拝見したことがある。また、市の方でもどのような取り組みがあるのかご検討いただけたらと思う。

委 員：今年度は、週４回小学校、週１回中学校に司書として行っている。

駒ヶ谷小学校では全校児童が８５人で、とても人数が少なく、その都合で買える本の冊数が少ないので公共図書館に貸出を頼ることになってしまう。

いつもたくさんの本を公共図書館から借りることができ、大変助かっている。

調べ学習の本を買おうと思うと、金額がはね上がってしまってどうしても手が出せないの、本当に公共図書館から必要なものを借りるところで大変助かっているし、週２回、公共図書館から本を送っていただく連絡便もあり、大変助かっている。私は、中学生で本を読む人たちはあまりいないかと思うが、中学校にも、本をもう少し貸していただいてもいいかなと思う。

週１回、中学校に司書が行っているが、授業の始まる前の５分間に本の読み聞かせをしている。中学生でも本当に真剣に面白くおはなしを聞いてくれるので、本を読むことが嫌なのではなく、読む時間がないだけと思うので、本に関わる時間を少し増やしていけたらいいのかなと思って続けている。

会 長：今、図書の配送が各学校と中央図書館を結ぶということに触れていただいたが、６ページの項目２つ目、羽曳野市は図書配送業務を委託して予算化しておられるのですが、私が関わっています図書館がある市では、この配送業務を委託・予算化されていないので、学校司書や教員の方が、図書館へ取りに行くという状況ということ、つい先日ご報告を受けました。羽曳野市はきっちりと予算化されているので、ぜひ継続して学校図書館の環境整備というところでつなげていただけたらと思う。

委 員：先ほどのご説明の中で情報提供のあった、SNSを活用しての情報発信であるとか、市全体では戦略広報プロジェクトということで、プレスリリースの活用や、いろいろな媒体で市の取り組みを紹介していこうという全体の動きがある。そういったことを図書館行政においても活用していくのはとても大事ななと思っている。この会議前に「子供の読書離れ」について、いろいろ調べていたところ、全国学校図書館協議会というところが学校読書調査というのを毎年されていて、31年間の推移っていうのが出ている。具体的には「5月の1ヶ月間に何冊の本を読んだか」。それを見て、小学生中学生高校生でアップダウンはあるが、実際のところ、本を読んでいる冊数がすごく

減っているのかと言うと、実は減っていない。例えば 25 年前の 2000 年を見ますと、小学生当時は 1 ヶ月 6.1 冊だったのが 2025 年には 12.1 冊とか。高校生は大体低いけれども、小中学生の読んでいる冊数は意外と増えている。

そうすると、一概にスマートフォンとかソーシャルメディアっていうのが読書離れに繋がっているのかという、今の若い子供たちは生まれたときからそういうデジタルに接しながら、例えばインスタや TikTok で、読書のインフルエンサーがおすすめ本を紹介していて、それを参考に面白い本を読んで、先ほどご紹介のあったビブリオバトルみたいところで、友達が勧めた本を私も読んでみようみたいな子や、デジタルを活用して、うまく紙とそういうソーシャルメディアを使いこなしているというような子供たち、若い人たちの動きがあるのかなと思う。今取り組んでいる戦略広報で Instagram 等うまく活用しながら、読書アプリ等、これは私も使っているがとても大変便利。そういう上手くデジタルと融合しながら、子供たち、特に中高生が読書に魅力を感じてくれるような取り組みがあったらいいと思う。

会 長：今、委員が紹介された全国学校図書館協議会 SLA は、毎年 11 月に学校図書館という雑誌に詳細な報告があるが、概要だけはホームページでグラフが紹介されている。小中高校生までがこの調査対象ですが、参考までに、大学生に関しては、全国の大学生協が学生生活実態調査をしていて、そこで読書時間を発表しているのが小中高校生よりもっと悲惨な状況。不読率の高さということで、SLA は高校までというようなこともあり、最初に教育長が報告してくださった数値なども見極めながら、必ずしも本当に「小学生の読書量が減っている」ということではないが、実際のエビデンスに基づいてきっちりと把握していく必要があると感じた。